

新石器時代を代表する建造物といっているのは立柱（スタンディング・ストーン、スタンディング・ウツス）で、世界で一番有名なのはイギリスのストーン・ヘンジ（石の囲の意）だが、ほかにもたくさんあるし、日本の秋田県大湯の環状列石も日本史の教科書に出てくる。

石柱に先行して木柱が使われた可能性が高いが、柱穴しか跡が残らないので、よほどその気で発掘しないと確認はむずかしい。

立柱こそ建築的表現のスタート点ではないかとの思いがつのり、この一〇年ほど、世界の遺跡を探訪してきた。アイルランドの孤島からヨーロッパ、モンゴルの草原、朝鮮半島、台湾、アメリカでは北米のインディアン遺跡から中米のマヤ遺跡まで、たくさん例がある。

なかでも興味深かったのはメキシコ・シテイの例で、土と石でなだらかな三角型の山を築き、そのてっぺんに堅穴を掘り、中に石の柱を立てていた。たまたま泊ったホテルの窓から見えたので出かけたが、地味な遺跡のせいか見学者はほとんどいない。でも、案内板を読むと、考古学上は重要らしい。

あまりに有名なマヤ遺跡に先行してテオティワカンの太陽と月のピラミッドの大遺跡が知られているが、さらにテオティワカンに先行するのがこの地

プロフィール
1946年長野県に生まれる。
工学院大学教授、東京大学名誉教授。
日本の近代建築をおもなテーマとし、建築史研究・文筆活動をおこなう。
1991年、故郷である長野県茅野市の依頼で「神長館守矢史料館」を作り、建築家としてデビュー。自然の素材、地域に残るむかしながらの技法をとり入れた独創的な作品を特徴とする。他、建築作品に、「天竜市立秋野不矩美術館」「熊本県立農業大学校寮」「空飛ぶ泥舟」などがある。



立柱とピラミッド

藤森照信

味な遺跡だという。

土盛りを石で補強した低くて地味なピラミッド、そして頂部のスタンディング・ストーン。この土盛りと立柱のセットが発展すると、テオティワカンへてマヤにいたる。両大遺跡の段階では、石の立柱はあるものの尾氈骨化し、主役は巨大な石のピラミッドとなつているから気づかない人がほとんどだが、マヤの遺跡のいくつかはピラミッドの周囲に忘れられたように一本、二本と立っていたりする。

北アメリカの立柱遺跡の一つでは、木柱によるサークルの横に土だけのマウンド（土盛り）が築かれ、頂部に石柱が立っていた。

北米からメキシコへと人類が南下したことを考えると、北米では土盛りと立柱（石柱・木柱）のコンビが、メキシコに入つて発達し、やがてマヤのピラミッドにいたる、とは考えられないだろうか。

さらに私としては、人類がペーリング海峡を歩いて渡ってアメリカ大陸に入った時、立柱の信仰も携えていた、と考えたいが、残念ながら、人類がアメリカに入ったのは立柱の新石器時代ではなく、その前の旧石器時代の末期だから、ユーラシア大陸とアメリカ大陸の立柱はつながらない。立柱がつながらないと、立柱が進化して生れたピラミッドはもつとつながらない。

月刊
みんぱく
10月号日次

- | | |
|---|--|
| <p>1 エッセイ 千字文
立柱とピラミッド 藤森 照信</p> <p>2 特集 保存食</p> <p>3 アイヌの保存食 齋藤 玲子</p> <p>4 干しサケはパン、そしてアザラシ油 渡部 裕</p> <p>5 お盆のメズシ——「ナレズシ」から「寿司」へ 堀越 昌子</p> <p>6 「人生の愛」にたとえられるチューニヨ 山本 紀夫</p> <p>7 スイカを干す 池谷 和信</p> <p>8 肉の塩漬け保存——ブルガリア風 マリア・ヨトヴァ</p> <p>9 エストニアのびん詰食品 庄司 博史
宇宙でのお楽しみ 堂山 浩太郎</p> <p>10 研究フォーラム
ケアと育みの人類学
鈴木 七美</p> | <p>12 みんぱく Information</p> <p>14 地球ミュージアム紀行
ライブツィヒ民族学博物館のアイヌ資料
藪中 剛司</p> <p>15 みんぱく私の逸品
魚皮衣
村木 美幸</p> <p>16 散策と思索の径
時空を越えて、ふるさとへ
田村 克己</p> <p>18 多文化をささえる人びと
世代を越えて、民族のことは
京都朝鮮第三初級学校の朝鮮語教育
柳 美佐</p> <p>20 歳時世相篇
ノーラットリー
インドの変化をうつしだす祭り
三尾 稔</p> <p>22 フィールドで考える
“ファーマーズ・マーケット”の描く農業の未来図
菅瀬 晶子</p> <p>24 次号予告・編集後記</p> |
|---|--|